

甲 第 号

寺崎 智志 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	今村 知明
論文審査担当者	委員	教授	上村 秀樹
	委員(指導教員)	教授	斎藤 能彦

主論文

Outcomes of catecholamine and/or mechanical support in Takotsubo syndrome

たこつぼ症候群におけるカテコラミンと機械的サポートの効果

Satoshi Terasaki, Koshiro Kanaoka, Michikazu Nakai, Yoko Sumita, Kenji Onoue,

Tsunenari Soeda, Makoto Watanabe, Yoshihiro Miyamoto, Yoshihiko Saito.

Heart. 2022 Jan 19:heartjnl-2021-319904.

論文審査の要旨

寺崎智志君は、日本循環器学会の登録研究である JROAD-DPC を用いて、比較的稀で、比較的予後良好と考えられているタコツボ症候群(TTS)6,169 例を対象に、同疾患でのカテコラミン（CS）または機械的サポート（MS）が必要な重症 TTS 患者の臨床的特徴を解析した。全 TTS 症例を重症 TTS 群（1,148 人[18.6%]）と軽症 TTS 群（5,021 人[82.4%]）に分けると、30 日死亡率は、重症群が有意に高いことが明らかとなった（11.4%対 2.6%、 $P<0.01$ ）。多変量解析では、男性（オッズ比[OR]：1.22、 $P=0.03$ ）、Charlson スコアの高さ（OR：1.11、 $P<0.01$ ）、肺炎の併発（OR：1.68、 $P<0.01$ ）、敗血症の併発（OR：6.02、 $P<0.01$ ）、救急車の利用（OR：2.01、 $P<0.01$ ）が重症 TTS と関連していることを明らかにした。

公聴会では、カテコラミンが TTS の発症に関係しているとの報告があるが、局所のカテコラミンと循環しているカテコラミンのどちらが主に関与しているかという質問に対しては、今回の解析からは、それは明らかにすることができないが、双方とも関与していると想像すると回答された。また、多重共線性に関する質問に対しては、一定の検定を行い、多重共線性については許容範囲であることを確認していると回答された。

以上、本研究は TTS の病態の理解に重要な情報を与えるものとして、重要な研究と理解され、学位に値すると判断する。

参 考 論 文

1. Role of climatic factors in the incidence of Takotsubo syndrome: A nationwide study from 2012 to 2016.

Koshiro Kanaoka, Satoshi Okayama, Satoshi Terasaki, Tomoya Nakano, Masanobu Ishii, Michikazu Nakai, Kenji Onoue, Kunihiro Nishimura, Satoshi Yasuda, Kenichi Tsujita, Rika Kawakami, Yoshihiro Miyamoto, Hiroyuki Tsutsui, Issei Komuro, Hisao Ogawa, Yoshihiko Saito.

ESC Heart Fail 2020;7:2629– 36.

論文タイトルを記載してください。

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに循環器病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和4年3月8日

学位審査委員長

公衆衛生学

教授 今村 知明

学位審査委員

先天性心疾患診断治療学・心臓形態学

教授 上村 秀樹

学位審査委員(指導教員)

循環器病態制御医学

教授 齋藤 能彦